

看護診断	
# 4 活動低下に関連する便秘の危険性	
期待される効果	
1. 自然な排便ができる 2. 過度な努責をかけることなく排便を行うことができる	
看護計画	
O-P (観察計画)	1. 排便回数、性状、量 2. 腹部膨満の有無 3. 腸蠕動音 4. 食事摂取量 5. 水分摂取量 6. 日中の活動状況 7. 排便環境 8. 便意の有無
C-P (ケア計画)	1. 排便環境を整える (病室の位置、トイレの手すりの位置) 2. 便意の訴えがあった際にはすぐに対応する 3. 日中の座位保持や活動時間を増やす 4. 水分摂取を促す (毎食 200ml 以上) 5. 3日以上排便が見られない場合は座薬等を考慮し医師に報告する
E-P (教育計画)	1. 便意があったら我慢せずすぐに伝えるよう説明する 2. 水分摂取の必要性について説明する